



編集・発行

大阪府立

呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL: 072-957-2121

FAX: 072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: kokyucen@ra.opho.jp



看護部からのメッセージ

看護部長 ^{みやもと}宮本 ありさ



桜のつぼみが膨らみ春の訪れが待遠しい季節となりました。今年は看護部の活動について、「かわらばん」を通じて皆さまにも知っていただけるよう、「誠意と温かみのある優しい看護を目指して」をテーマに毎月紹介しています。1月は産婦人科病棟による「助産外来の開設」の案内でした。その助産外来から嬉しいお知らせです。助産外来を受診された妊婦さんが2月に待望の赤ちゃんを出産され、助産外来から第1号のママさん誕生がしました。第1号ママさんからは、「自分の力で生むことができた」という大変嬉しい感想も聞かれています。2月には小児科病棟がエデュケーター看護師の紹介をしています。エデュケーター看護師とは、日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会が認定している小児アレルギーエデュケーター資格のことです。小児アレルギー疾患に対する専門的な知識・技術を習得した看護師が、院内にとどまらず地域にも出向いて、子どもや保護者を対象に吸入・服薬指導などを指導しています。このように、看護部では一人ひとりが専門性の高い看護を提供できるよう、各部署で毎年目標を決めて取り組んでいます。また、専門看護師3名、認定看護師7名、ORCスペシャリティナース(院内認定看護師)15名、呼吸療法認定士44名、小児アレルギーエデュケーター7名が専門性とリーダーシップを発揮しながら院内外で幅広い活動を行っています。ホームページでは専門看護師と認定看護師が活動を紹介していますので、一度みてください。

さて、ベッドサイド以外でも看護部スタッフは様々なことにチャレンジをしています。なかでも毎年5月に恒例の催しとなった「看護の日」では、看護師によるハンドベル演奏、部門の垣根をこえて編成されたメンバーでのフラダンスや手話歌など、見事なチームワークを披露します。今年の「看護の日」は5月9日と10日の2日間です。テーマは「ふれあい看護～広げよう人の輪・看護の輪～」です。ハンドベルやフラダンス以外にも健康や看護に関する色々な催しを企画しています。是非、普段見ることのできない当センタースタッフのパワーと笑顔を見に来てください。



生物学的製剤時代の医療

臨床研究部長

^{まつもと}松本 ^{ともしげ}智成



生物学的製剤、またはバイオという言葉を目にした方も多いと思います。生物学的製剤による治療は、体内の炎症反応を引き起こすサイトカインやサイトカインを作る細胞を、人工的に作成した抗体やタンパク質によって治

療することであり最近の医療のトピックスの一つになっております。関節リウマチでは早く診断して、早期に生物学的製剤等を用いて積極的に治療する事が強調されております。ですのでリウマチ、アレルギーを診療している大きな医療機関にいたるところで投与されています。



生物学的製剤の効果はいままでの治療と比べて劇的で苦痛から解放されたという方もいらっしゃいます。しかしながら生物学的製剤には感染症を引き起こしやすいという問題点があります。

米国の医学雑誌 New England Journal of Medicine (NEJM)によりますと現在、世界における感染症における死因の一位は、呼吸器感染症。二位は、消化器感染症、三位は HIV 感染症。四位は結核となっています。

さらに、2009 年の世界保健機構(WHO)の推計では、世界中で年間に 940 万人が新規に結核を発病し、130 万人が結核で死亡しています。

生物学的製剤によって起こされやすい感染症は、肺炎(カリ肺炎を含む)、結核、非結核性抗酸菌症といわれています。また最近では B 型肝炎の再活性化も問題となっております。生物学的製剤投与下の感染症は、投与していない時に発生した場合と比較して治療の反応性が今までの感染症とは異なる事が多く医師の経験と技量が問われる領域です。これらの感染症が発症した時にいかに適切に対応するのみならず、発症しないようにするリスク管理が重要となってまいります。

<看護部 誠意と温かみのある優しい看護を目指して③>

2A病棟

2A 病棟は、外科外来と病棟(呼吸器外科、消化器・乳腺外科、婦人科)・集中治療室がひとつのチームとなり、総合的に治療をサポートしています。

手術を受けられる患者さまの場合、外科外来で諸検査を受け手術に必要な説明を外来看護師が行います。入院後は、外来での情報を共有し、手術への不安や緊張感が軽減されるように、患者さまの状況に合わせたケアを行い、手術にのぞめるようにサポートします。手術後には、状況に応じて、集中治療室へ入室して頂き、順調な回復過程を辿れるように継続看護を行っています。



このように外来診療から手術を経て退院までの過程を、それぞれのチームが専門知識を発揮し、情報を共有しながら連携し、一人ひとりの患者さまを大切にサポートしています。

集中治療室は全国でも数少ない呼吸器集中治療施設(IRCU)です。集中治療室では、重症呼吸不全、心不全、手術後の集中ケアなど幅広い高度医療に取り組んでいます。看護師の中には、呼吸療法認定士 や慢性呼吸器認定看護師など呼吸管理に熟練したスタッフも多く、専門性の高い看護を提供しています。



3月の教室案内

*カンガルー教室	● 3月 6・13・27 日	午後 1 時～	第 1 会議室
*禁煙教室	● 3月 7 日	午後 3 時 30 分～	医療情報コーナー
*喘息教室	● 3月 21 日	午後 1 時 45 分～	第 2 会議室